

令和6年5月〇日

鳥取市長 深澤義彦 様

気高地域振興会議

会長 河根 裕二

気高地域の新設統合小学校建設に係るまちづくり構想について(意見書)

市長様には、日頃から、気高地域のまちづくりにご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、鳥取市教育委員会では、気高地域の小学校統合について、町内4つの小学校を統合し新たな学校を整備するための基本方針が示され、その後、候補地周辺の用地造成等に伴う測量、地質調査、予備設計などの事前調査が完了したと伺っています。

つきましては、新設小学校建設に連動するまちづくり構想を、本会議で下記の通り取りまとめましたので、ご報告いたします。

様々な問題や解決すべき課題もあると思いますが、一日も早い新設統合小学校の開校が気高町民の切なる願いですので、早期に用地を決定していただき、建設工事を迅速に進めていただきますようお願いいたします。

1 浜村駅周辺のまちづくりの構想について

新設小学校の建設候補地は、地域の核となるべきJR浜村駅南で、気高町総合支所にも近く、各種公共施設も集まっていて、気高地域の生活拠点ともいえる場所である。気高地域のさらなる発展のためには、新設小学校建設と合わせて、周辺的生活道路網を整備することが重要である。通学路の安全確保や災害時の避難や対応の迅速化にもつながる最重要事項といえる。

○安心安全なまちづくり

学校建設候補地周辺の狭隘な道路を拡幅整備することにより、通学時の児童や近隣住民の安全確保が可能となり、地域住民の利便性がさらに高まる。特に、山陰道インターチェンジから学校や公共施設に通じる道路の整備で、日々の通学がスムーズになるだけでなく、緊急時の大型車両の通行などが可能となり、万が一の災害への迅速な対応が期待される。

また、グレースタウン横の踏切の幅が狭く、安心・安全な通学できるように整備する必要がある。

その他、通学時の児童や地域住民の安全確保のため、安全設備の設置や交通規制などの必要な措置を講じて、安心・安全なまちづくりを進めなければならない。

○まちなぎわいづくり

学校建設候補地に隣接する現気高町コミュニティセンターと旧気高町民体育館は老朽化し、耐震強度が課題となっている。これらの施設を撤去して、社会教育施設や福祉施設・温泉施設等を複合化し、駐車場や広場なども含めて再整備することで、衰退している浜村温泉街のにぎ

わいづくりや憩いの場の創出につながることを期待される。

2 特色ある学校づくり

全国的なモデルケースとなる地域一体型の特色ある学校づくりを進めるうえで、気高地域の実態に合った教育施設の複合化・共用化を推進することが重要である。地域住民が気軽に学校施設を訪れることができるようにすることが、地域ぐるみで子どもを育てる環境をつくることにつながる。

なお、複合化等を推進するにあたっては、児童の安全確保を最優先に位置づけたうえで、地域住民との交流促進を図ることが重要である。

○子育て・教育環境の充実

浜村小学校の放課後児童クラブの利用者は、現在約100名もおり、大変ニーズが高いといえる。統合によりさらに利用者が増えることが予想されるので、大人数の受け入れ可能な施設が必要となる。学校に隣接して放課後児童クラブが入れる施設を設置すると、児童の負担が減り、保護者の安心感が高まり、「子育て世代が住みたいと思う町」づくりにつながる。

スクールバスの導入も検討が必要であり利用する児童が、風雨を防ぎながら安心して待てるバス待合所を児童玄関近くに設置する必要がある。また、安全な乗降のためには、バスが長時間停車できる駐車場も必要である。バスの回し場も設定して、スムーズな運行ができるようにしておくことが、安全を確保する上で重要なポイントになると思われる。

○地域に開かれた学校づくり

社会教育施設等と学校との連携により、特色ある学校づくりが可能となる。学校教育の地域連携は全国的に強化されてきているが、さらに一步前進させるために施設の複合化の検討を行い、多様な連携を模索する必要がある。

また、統合小学校の多目的ホールや体育館を地域住民も活用しやすい形状や配置にすると、講演会、芸術公演、コンサート、映画上映等のイベントで活用できるようになる。気高町では、現在、大人数が集まる文化的なイベントを地元で企画することが難しい状況にあり、文化ホールの機能を有する施設の設置がぜひ必要である。

統合すると、学校行事等で、車で来校しなくてはならない保護者が増え、施設の複合化により、地域住民の駐車場利用も多くなるため、駐車スペースをしっかりと確保しておきたいものである。

○災害時への対応

災害時に、浜村地域の避難所として活用されることを想定すると、校舎建築の際に、避難所の生活環境を悪化させないための対策を可能な限り取り入れておくことが重要である。能登半島地震の教訓を活かしたいものである。

体の不自由な方も避難できる施設・設備が整備されていると、いざという時の安心につながる。防災教育への活用も期待できるので、校舎建築とあわせて災害時に大いに役立つ施設整備

をしておくことが大切である。

○周辺の景観にマッチした学校づくり

鷲峰山を望む自然豊かな田園地帯になじむ校舎にするために、木材を効果的に活用したいものである。地域住民が、「わが町の小学校は気高町のシンボルだ！」と、自慢に思えるような校舎にするためには、校舎の特色づくりに努めることにより、地域住民がワクワクしながら見守り、期待感が高まり、気高町の活性化につながっていく。

校舎内装にも木材をふんだんに使うと、子どもたちが日々、木のぬくもりを感じながら心豊かに学校生活を送ることができる。廊下等の結露をおさえる効果もあるので、木材を有効に活用したいものである。

今回は、気高地域の新設統合小学校建設に係るまちづくり構想について意見を述べさせていただきましたが、総合的な学習や生活科で必要になる学校林や学校田の取得などのほか、将来的には気高中学校との義務教育学校構想も今後検討していく必要があると考えています。

気高町の将来の発展に関わることなので、上記の意見を設計等に活かさせていただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。